

第28回 高知県理学療法士協会新人発表学術集会(平成29年度) ～演題発表プログラム in 高知県立ふくし交流プラザ～

セッション 1 (神経)

座長 愛宕病院 佐々木 克尚

| | | | | | |
|------|-------|-----------|-------------------|--------------------------------|---|
| S1-1 | 野村 道隆 | ノムラ ミチタカ | いずみの病院 | パーキンソン病患者の筋緊張コントロールのための移乗方法の検討 | ーフレックスボードを使用してー |
| S1-2 | 藤岡 聖都 | フジオカ セイト | 大杉中央病院 | 二重課題を用いたアプローチの有用性について | ーシングルケーススタディーAB A' B'型を用いてー |
| S1-3 | 原 智美 | ハラ トモミ | 内田脳神経外科 | 慢性片麻痺患者のボトックス施行後の関わり | ー安定したまたぎ動作獲得に向けてライフスタイルに合わせた動作指導を行った症例ー |
| S1-4 | 米津 仁晴 | ヨネズ ミハル | 筒井病院 | 自宅退院を目指し排泄動作獲得にアプローチした症例 | |
| S1-5 | 戸島 綾香 | トシマ アヤカ | 田野病院 | 脳梗塞を発症し円背を呈している症例へのアプローチ | ー立ち上がりに着目してー |
| S1-6 | 行宗 稜太 | ユキムネ リョウタ | リハビリテーション病院すこやかな杜 | 延髄梗塞を呈し自宅復帰を目指した症例を担当して | ー屋外の移手段の獲得に着目してー |

セッション 2 (神経)

座長 内田脳神経外科 野々下 有希

| | | | | | |
|------|--------|-----------|-------------------|-----------------------------------|--------------------------|
| S2-1 | 関岡 颯太 | セキオカ ソウタ | リハビリテーション病院すこやかな杜 | 左小脳梗塞を発症し、左上下肢、体幹の失調症状を呈した症例を経験して | ー成功体験に基づくADL能力の向上ー |
| S2-2 | 田中 和 | タナカ ナゴミ | 南国中央病院 | 視床出血により左片麻痺を呈した症例 | |
| S2-3 | 下市 紘平 | シモイチ コウヘイ | 愛宕病院 | 広範囲な右中大脳動脈領域の脳梗塞により意識障害を呈した症例 | ー広南スコアを用いた分析とアプローチの取り組みー |
| S2-4 | 氏原 和樹 | ウジハラ カズキ | 森下病院 | 小児リハに携わるようになって | |
| S2-5 | 清水 綺羅里 | シミズ キラリ | もみのき病院 | 延髄梗塞により右片麻痺を呈した症例 | ー非麻痺側に依存した立ち上がり～立位に着目してー |
| S2-6 | 善万 亮太 | ゼンマン リョウタ | 野市中央病院 | 左片麻痺を呈した症例 | |

セッション 3 (運動器)

座長 愛宕病院 入野 悠依

| | | | | | |
|------|--------|----------|-----------------|--------------------------------|------------------|
| S3-1 | 中島 聖 | ナカジマ セイ | いの病院 | 山間部に暮らす独居高齢者の在宅復帰に難渋した症例を担当して | |
| S3-2 | 上岡 美咲 | カミオカ ミサキ | 高知病院 | 足関節最大底屈回数と下肢筋力および移動能力との関連について | |
| S3-3 | 汲田 蓮 | クミタ レン | 横浜病院 | 60歳代男性の左大腿骨転子部骨折を呈しγネイルを施行した症例 | ー失敗から学んだ理学療法の基本ー |
| S3-4 | 谷脇 彩耶 | タニワキ サヤ | いずみの病院 | 右大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術)を呈した症例 | ー施設復帰を目指してー |
| S3-5 | 川久保 優婁 | カワクボ ユウナ | だいいちリハビリテーション病院 | 圧迫骨折を呈した症例を担当して | ー在宅復帰に向けてのアプローチー |
| S3-6 | 寺田 一輝 | テラダ カズキ | 大井田病院 | 下腿義足作成し在宅復帰に向けて介入した症例 | |

セッション 4 (運動器)

座長 くぼかわ病院 山本 翔平

| | | | | | |
|------|--------|-----------|------------|---|---------------------------------|
| S4-1 | 岡村 侑 | オカムラ ユウ | 白菊園病院 | 右踵骨骨折を呈した症例を経験して | ーニーズである独歩獲得を目指してー |
| S4-2 | 岡林 てるか | オカバヤシ テルカ | 高知整形・脳外科病院 | 下肢整形外科疾患患者におけるT-caneと立位バランスの関係 | ー下肢荷重率とTimed Up and Go testの検討ー |
| S4-3 | 伊賀瀬 愛 | イガセ アイ | 南国中央病院 | 人工股関節全置換術後に異常歩行を呈した症例 | ー歩容改善を目指してー |
| S4-4 | 弘瀬 文 | ヒロセ アヤ | 細木病院 | THA症例に対する足部アプローチ | ー「疲れず歩きたい」という主訴に着目してー |
| S4-5 | 大崎 格志 | オオサキ タダシ | こんどうクリニック | 頸部筋群の過緊張が視力に及ぼす影響 | |
| S4-6 | 近江川 彩夏 | オオミカワ アヤカ | 愛宕病院 | 身体の認識が可能となることで荷重時痛やアライメント異常が改善した人工骨頭置換術後の症例 | |

セクション 5 (内部障害・その他)

| | | | |
|------|-------|-----------|--------|
| S5-1 | 吉本 真帆 | ヨシモト マホ | いずみの病院 |
| S5-2 | 水谷 佑哉 | ミズタニ ユウヤ | 山崎病院 |
| S5-3 | 岡林 里菜 | オカバヤシ リナ | 島津病院 |
| S5-4 | 野瀬 由衣 | ノセ ユイ | 北島病院 |
| S5-5 | 谷脇 美紀 | タニワキ ミキ | 島津病院 |
| S5-6 | 富永 平文 | トミナガ ヨシフミ | 北島病院 |

座長 近森病院 石黒 真理

重度ギランバレー症候群にて人工呼吸器離脱を目指した症例
 脳梗塞にハイラリンクスを合併し、上気道の気流障害を惹起した症例を体験して
 透析患者における体組成評価
 パンフレット作成による退院後の肺炎予防への取り組み
 HD患者における静的立位バランス能力の検証
 新人セラピストにおける歩行分析の指標としてHALが有用だった症例

セクション 6 (生活環境支援)

| | | | |
|------|--------|-----------|-------------------|
| S6-1 | 野島 瑞己 | ノジマ ミズキ | くぼかわ病院 |
| S6-2 | 徳永 涼 | トクナガ リョウ | 田野病院 |
| S6-3 | 田村 和樹 | タムラ カズキ | 渭南病院 |
| S6-4 | 尾崎 洸太郎 | オサキ コウタロウ | 筒井病院 |
| S6-5 | 掛水 沙耶 | カケミズ サヤ | リハビリテーション病院すこやかな杜 |
| S6-6 | 濱田 渚 | ハマダ ナギサ | 大井田病院 |

座長 細木病院 橋田 寿恵

パーキンソン病を既往に持ち転倒により右大腿骨転子部骨折を呈した症例を経験して
 自宅退院にむけて環境調整に難渋した症例
 入浴動作獲得に向けた取り組み - 転倒恐怖感に着目して -
 左視床出血を呈し、自宅退院のために動作獲得と環境調整を行った症例
 移乗動作の自立に難渋した右片麻痺患者の自宅退院に向けたアプローチ
 右片麻痺重度感覚障害を呈し、自宅復帰に向け階段昇降獲得を目指した症例

セクション 7 (神経)

| | | | |
|------|-------|-----------|---------------|
| S7-1 | 門脇 春樹 | カドワキ ハルキ | 森下病院 |
| S7-2 | 恒石 剛章 | ツネイシ タケフミ | 愛宕病院 |
| S7-3 | 山中 秀峻 | ヤマナカ ヒデタカ | もみのき病院 |
| S7-4 | 森 柊甫 | モリ シュウホ | 野市中央病院 |
| S7-5 | 藤川 開人 | フジカワ カイト | 高知記念病院 |
| S7-6 | 野川 智貴 | ノガワ トモキ | 内田脳神経外科 |
| S7-7 | 平井 裕弥 | ヒライ | 有料老人ホーム野いちご南国 |

座長 近森リハビリテーション病院 久川 舞

脳性麻痺(中等度左片麻痺)におけるボトックス施行後のリハビリ
 失行症に対して異種感覚情報の照合を考慮しアプローチを行った症例
 脳梗塞により左片麻痺を呈した症例を担当して - 座位能力に着目して -
 脳梗塞を呈した症例
 パーキンソン病における歩行障害に対する介入 - 自作した作成器具を使用した症例 -
 基底核障害により協調性の低下した歩行に対するアプローチ - 視覚・聴覚を用いて -
 アルツハイマー型認知症患者に認知課題を実施した結果、転倒リスク軽減につながった症例

セクション 8 (運動器)

| | | | |
|------|--------|-----------|----------|
| S8-1 | 川脇 佑介 | カワワキ ユウスケ | 松谷病院 |
| S8-2 | 田中 和佳 | タナカ ワカ | 幡多けんみん病院 |
| S8-3 | 森沢 結菜 | モリサワ ユナ | 永井病院 |
| S8-4 | 堤 雄 | ツツミ ユウ | 清和病院 |
| S8-5 | 藤村 悠大 | フジムラ ユウタ | JA高知病院 |
| S8-6 | 西原 さゆり | サイバラ サユリ | いずみの病院 |

座長 だいいちりハビリテーション病院 橋本 聡子

BHP術後の歩容修正に難渋した症例の在宅復帰とその後
 大腿骨頸部骨折を呈されたパーキンソン病患者様を担当して - 起居動作の自立を目指して -
 脱水後廃用症候群・摂食嚥下障害 - 直接嚥下訓練へと繋げる為に -
 地域包括ケア病棟患者を経験して
 左TKA術後の理学療法を経験して
 左下腿多発骨折を呈した症例 - 立位保持獲得への工夫 -

セクション 9 (運動器)

| | | | |
|------|--------|------------|-----------------|
| S9-1 | 北川 将之 | キタガワ マサユキ | だいいちリハビリテーション病院 |
| S9-2 | 森 純氣 | モリ ジュンキ | 須崎くろしお病院 |
| S9-3 | 杉山 華保 | スギヤマ カホ | 永井病院 |
| S9-4 | 谷口 京成 | タニグチ キョウセイ | 高知西病院 |
| S9-5 | 並村 圭祐 | ナミムラ ケイスケ | 愛宕病院 |
| S9-6 | 阿部 賢志郎 | アベ ケンシロウ | 木俣病院 |
| S9-7 | 堀田 承吾 | ホッタ ショウゴ | 竹本病院 |

座長 高知大学医学部附属病院 小川 真輝

左大腿骨頸部骨折を呈した症例 ー在宅復帰に向けてー
 超音波エコーによる評価に基づいたアプローチ ー右TKA術後症例を経験してー
 上肢挙上時の代償動作に難渋した一例について ー上腕骨近位端骨折・大結節骨折を呈した症例ー
 糖尿病性壊疽により右下腿切断を施行した症例 ー歩行自立と歩容改善に向けた取り組みー
 歩行立脚期に股関節が抜ける感じがすると訴える腰部脊柱管狭窄症の一症例
 足関節内反捻挫により不安定性を呈した症例に対するアプローチ
 両人工股関節置換術後の一症例 ー歩行率の改善に着目してー

セクション 10 (運動器)

| | | | |
|-------|--------|-----------|--------|
| S10-1 | 稲垣 知明 | イナガキ トモアキ | 筒井病院 |
| S10-2 | 宮地 静花 | ミヤジ シズカ | 愛宕病院 |
| S10-3 | 永吉 佐和 | ナガヨシ サワ | 大井田病院 |
| S10-4 | 橋詰 愛里彩 | ハシツメ アリサ | 高知病院 |
| S10-5 | 久保田 夏未 | クボタ ナツミ | 細木病院 |
| S10-6 | 間 一樹 | ハザマ カズキ | 伊藤整形外科 |

座長 いずみの病院 松田 司直

変形性膝関節症が既往にある左大腿骨転子部骨折の症例を担当して
 応用行動分析を用いてトイレ動作が自立した症例 ー立位バランス向上、動作手順の確認ー
 鎖骨骨折患者で骨癒合が遅延した症例に対する肩関節包内運動
 転落により多発骨折を呈し、両下肢免荷となった症例 ーロジックツリーを用いた症例の予後予測と最終状況ー
 TKA術後成績に関係する因子の検討 ー当院TKAパス使用症例を通じてー
 上腕骨近位端骨折術後の上肢機能の予後 ー脊柱後彎を生じた症例ー

セクション 11 (内部障害・その他)

| | | | |
|-------|-------|-----------|------------|
| S11-1 | 笠松 佐衣 | カサマツ サエ | 田野病院 |
| S11-2 | 松岡 佐記 | マツオカ サキ | 国立病院機構高知病院 |
| S11-3 | 中城 有紀 | ナカジョウ ユキ | 永井病院 |
| S11-4 | 坂田 真一 | サカタ シンイチ | 北島病院 |
| S11-5 | 井上 真弥 | イノウエ マヤ | 島津病院 |
| S11-6 | 澤松 朋紀 | サワマツ トモノリ | 筒井病院 |

座長 高知赤十字病院 武田 陽平

リハビリと栄養 ー低栄養とサルコペニアに着目してー
 腹部外科術後に重度筋力低下を認めた症例の自宅退院を目指した取り組み
 入院を繰り返し廃用症候群をきたした症例について
 後期高齢者における基本バランス能力テストの妥当性・実用性の検討
 HD患者の膝伸展筋力と立位バランスが歩行能力に与える影響
 心原性脳塞栓症を発症し排泄機能低下した症例

セクション12 (生活環境支援)

| | | | |
|-------|-------|-----------|-------------------|
| S12-1 | 藤本 准奈 | フジモト セナ | 渭南病院 |
| S12-2 | 竹政 亮汰 | タケマサ リョウタ | 内田脳神経外科 |
| S12-3 | 能勢 莉澄 | ノセ リズム | 南国中央病院 |
| S12-4 | 市川 和史 | イチカワ カズチカ | リハビリテーション病院すこやかな杜 |
| S12-5 | 井上 大志 | イノウエ タイシ | 高知生協病院 |
| S12-6 | 武市 幸大 | タケチ ユキヒロ | 土佐田村病院 |

座長 田野病院 下村 拓也

THA術後患者の床上動作獲得に向けた取り組み ー禁忌肢位の理解に着目してー
 重介助を呈する高齢者が在宅復帰を果たした症例 ー介助者側に主眼を置いてー
 環境調整の重要性を学んだ一症例
 左脳出血により右片麻痺を呈した症例 ー古い家屋環境のため在宅復帰に難渋した例ー
 自宅が立ち退きとなり退院先の支援に難渋した症例
 生活期のポジショニングについて